

ゴールデンウィーク初日の29日、さいたま市で開かれている「第8回世界盆栽大会」の記念イベント「日本の盆栽水石至宝展」（さいたまスーパーアリーナ）は多くの人でにぎわった。

会場には皇居にある盆栽や、川端康成が愛した「五葉松」など盆栽・水石の名品約300点が並び、来場者は熱心に見入っていた。

舞台ではオーストラリアの盆栽作家による実演も。同国から来たフィリップ・イカースさん(65)は「自然の美しさを自らの中に取り込むことが出来るのが、盆栽の素晴らしい。こんなに大きな会場で、私たちの代表が技を披露できるのは誇りです」と話した。大会と展覧会は30日まで。



推定樹齢130年の「黒松」を見る来場者＝さいたま市中央区のさいたまスーパーアリーナ

披露

圧倒

盆栽の美

さいたま市の大宮駅西口の商業施設「アルシェ」前では、市内に園を構える盆栽師・平尾成志さん(36)が盆栽パフォーマンスを披露した。

この日は、和太鼓の演奏とのコラボレーション。威勢の良い音が響く中、陶器などで作った骨組みに粘土質の土を置き、そこに真柏やハゼなど約10種の木を次々と植え付けた。

30分ほどで完成すると、観客からは大きな拍手がわいた。

平尾さんは「木もお客さんの『気持ち』を感じていた。盆栽は面白い、格好良いと感じてもらえたら」。(増田愛子)

GW始まる



陶器などで出来た骨組みに木を次々と植え付けていく平尾さんリアルシェ前